



令和5年1月20日
第484号
新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

勇気をもつこと～よい1年になりますように～

校長 飯塚 進

令和5年が始まりました。よりよい学校を目指し、職員一同力を合わせて教育活動を推進いたします。保護者、地域の皆様も、引き続き御支援、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、私がまだ20代の頃、映画監督の山田洋次さんが書かれたエッセーを題材にした道徳の授業を参観したことがあります。そのエッセーの概要を紹介させていただきます。

(記憶に頼っているのですが、実際のエッセーと相違点があると思われます。御了承ください。)

子どもの頃、同じクラスにみんなから怖がられていたA君という男の子がいました。いつもいばっていて、みんなA君のいいなりでした。ある授業で、担任の先生が、あろうことか「一番好きな友達を教えてください。」と言いました。順番に先生が指名していきます。初めの人「A君です。」と答えました。2番目の人「A君です。」と答えました。次の人も、その次の人も同じように答えます。さすがに先生の顔がくもり始めました。その時、学級委員だった山田君の責任は重大です。先生が期待を込めて「山田君。」と言いました。しかし、他の人と同じように「A君です。」と答えてしまいました。

同じように指名が続き、窓側の一番前の席の人の番になりました。その人はB君という男の子で、A君にことさらいじめられていた人でした。先生が「B君はどうですか。」と聞いたところ、B君は、なんと「ぼく、A君なんて大嫌いです！」と叫んだのです。

クラス中の子どもたちが、腰をぬかさんばかりに驚くとともに、B君の紅潮した横顔と、B君から後光がさしたように見えた光景は、今も忘れることはできません。

この話の中での、山田君やその他の子どもたちの発言も、致し方ないことかなと共感できます。ただ、B君の言動は、「勇気」という言葉が当てはまると思うのです。この後、A君が自分の今までの言動を反省し、謝罪するとともに、周りの子どもたちも寛容性を発揮し、みんなで仲良く過ごしたであろうことを祈るばかりです。

子どもたちには子どもたちの世界があります。迷うことや不安になること、失敗することもあるでしょう。そうやって必死に生きている子どもたちが、「自分らしく」よい時間を過ごすために、私たち大人ができることを考えていきたいと思います。また、子どもたち自身にもしっかり考えて、勇気をもって行動してほしいと思います。

すべての子どもたちにとってよい3学期、そしてよい1年になることを願っています。